



経済産業省



環境省

資料 2

**サーキュラー・エコノミー及びプラスチック資源循環分野に係る  
ファイナンスの検討について**

**令和2年6月24日**

**経済産業省**

**環境省**

**1. 本研究会における検討方針（案）**

2. ご議論いただきたい論点のまとめ

# 1) 本研究会におけるガイダンスの検討方針（案）

- 投資家等と企業との間にサーキュラー・エコノミーに関する共通認識を形成するとともに、機会とリスクを整理し中長期的な目線で建設的な対話を促す環境を整備することが重要。
- その際、①ガラパゴス化しないように国際的な議論との調和を図ること、②新しいビジネスモデルだけでなく、廃棄物を原料として使用するセメントといった業種の再評価等他の環境目的との関係性に留意する必要。
- **主要な環境情報開示フレームワークでの共通項目を参考にしつつ、投資家等と企業との双方を対象とし、建設的な対話の促進につながるガイダンスを策定することとしてはどうか。**
- また策定の際には、サーキュラー・エコノミーは多様な取組を含むものであるため、サーキュラー・エコノミーの該当性について企業間の厳格な比較を追求するのではなく、まずは企業内において価値創造ストーリーの中でCEを位置付けることを重視し、また、投資家等が建設的な対話に活用できるためのガイダンスとする（詳細に細則を定めるものではなく原則を定める）ことで良いか。

## 【想定される本ガイダンスのユーザー及び用途】

### ユーザー

- 投資家等
- 企業

### 用途

- ✓ 建設的な対話の促進

### 投資家等と企業との建設的な対話の促進



## 2) 主要なESG情報開示フレームワークとの比較

- 主要なESG情報開示フレームワークの共通項目として、「ガバナンス」、「マテリアリティの特定」、「リスク・機会」、「戦略」、「指標」といった5つの項目が挙げられる。

	国際統合報告フレームワーク	GRIスタンダード	SASBスタンダード	TCFD最終提言書	価値協創ガイダンス	環境報告ガイドライン	有価証券報告書	コーポレートガバナンス報告書
組織・事業概要等	○	○	—	—	—	○ ※環境のみ	○	○
ビジネスモデル (全容の総体的・体系的な記述)	○	—	—	—	○	○ ※環境のみ	○	—
取締役・経営陣のメッセージ	—	○	—	—	—	○ ※環境のみ	○	—
ステークホルダーとのコミュニケーション	—	○	—	—	○	○ ※環境のみ	○ ※労働組合との間の特記事項など	○
ガバナンス (体制、規律付け、仕組み等)	○	○	○	○ ※気候変動のみ	○	○ ※環境のみ	○	○
マテリアリティの特定 (開示対象事項の特定)	○	○	○	○ ※気候変動のみ	○	○ ※環境のみ	○	—
ESGリスク・機会の認識等 (財務への影響認識・見直し含む)	○	○	○	○ ※気候変動のみ	○	○ ※環境のみ	○	—
気候変動シナリオ分析の活用	—	—	○	○	—	— ※報告事項に含まれないが普及あり	—	—
戦略・取組み等 (マテリアルな事項について)	○	○	○	○ ※気候変動のみ	○	○ ※環境のみ	○	—
実績(KPI)等 (マテリアルな事項について)	○ ※具体的なKPIの設定ない	○	○	○ ※気候変動のみ	○ ※具体的なKPIの設定はない	○ ※環境のみ	○ ※具体的なKPIの設定は限定的	○ ※ガバナンスのみ

定性的な記述情報が中心

定量情報

注：各ESG情報開示基準等の開示項目・指標に照らして、最も関係すると考えられる項目に分類している。

なお、「○」を付けた項目の内容が完全に一致していることを意味していない。(出典) GPIF委託調査研究「ESGに関する情報開示についての調査研究」 図25

### 3) ガイダンスに盛り込むべき建設的な対話の視点（案）

- 策定するガイダンスに盛り込むべき建設的な対話の視点において、一部のESG情報開示フレームワークで採用している「価値観」と「ビジネスモデル」をどう扱うか。
- サーキュラー・エコノミーには中長期的な観点が特に不可欠なため、企業活動の根幹を成す企業理念等の「価値観」にも関連付けて、全社的に取り組んでいくことが重要。また、サーキュラー・エコノミーには多様な取組が含まれることから、ビジネスモデルがどのようにサーキュラー・エコノミーと関連付くのかを具体的に解説することで、投資家等と企業との建設的な対話の円滑化を期待。

ESG情報開示 フレームワークの の共通項目	本ガイダンス	
価値観	価値観	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会における自社の存在意義を支える企業理念やビジョンといった価値観の中で、循環経済への移行という中長期的な社会的課題をどのように意識し、価値を提供して成長することができるのかを説明する。</li> <li>● 循環型の事業活動がビジネスモデルに織り込まれているか、それが中長期的な競争優位性の源泉となり得るか、キャッシュフロー創出に寄与し得るものかを説明する。例えば、枯渇性資源に依存したビジネスか再生可能資源を活用したビジネスかは、中長期的な競争力を評価する上で重要な視点となる。</li> </ul>
ビジネスモデル	ビジネスモデル	
+		
ガバナンス	ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業として、循環型の事業活動へ転換していく必要性を認識し、それを経営理念として位置づけられているか。そのための態勢等が構築されているかを説明する。</li> </ul>
戦略	戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 短期・中期・長期の機会とリスクを分析した上で、自社の競争優位を支える経営資源等をどのように確保・強化し、それらを喪失するリスク等に対してどのような方策を講じていくのかを明確にする。</li> </ul>
機会とリスク	機会とリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自社の企業価値に重要な影響を与えるリスク（やオポチュニティ）を特定するプロセスを説明した上で、自らが取り組むべき項目を特定し、それを説明する。</li> </ul>
指標と目標	指標と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業が循環性の高い事業やプラスチック対策を通じた企業価値を高めているための道標として、また、その達成度を測る尺度として、成果を評価する重要指標を予め定め、投資家等に示す。</li> </ul>

## 4) 本研究会の進め方 (案)

- 今後の研究会の進め方は以下のとおり。ガイダンスに盛り込むべき建設的な対話の視点項目に沿って検討を進めていくことでどうか。

### アジェンダ (予定)

第1回 (済)	循環経済の現状と課題
第2回	ガイダンス作成の方向性、循環型のビジネスモデル
第3回	価値観、機会とリスク
第4回	ビジネスモデル、ガバナンス、戦略、機会とリスク、指標と目標 投資家等と企業との建設的な対話のために必要な方策
第5回	ガイダンス案①
第6回	ガイダンス案②、国内外の発信

循環経済フォーラム@東京  
PRI in Person@東京 等  
の場を活用し**ガイダンスを国際的に発信** (予定)

1. 本研究会の検討方針（案）

2. **ご議論いただきたい論点のまとめ**

# ご議論いただきたい論点

- 御議論いただきたい論点は以下のとおり。

## 論点1：ガイダンスの検討方針について（目的、ユーザー、用途）

- 投資家等と企業との間にサーキュラー・エコノミー及びプラスチック資源循環に関する共通認識を形成するとともに、機会とリスクを整理し、中長期的な目線で建設的な対話を促す環境を整備することをガイダンス作成の目的とすることで良いか。
- サーキュラー・エコノミーは多様な取組を含むものであるため、サーキュラー・エコノミーの該当性について企業間の厳格な比較を追求するのではなく、まずは企業内において価値創造ストーリーの中でCEを位置付けることを重視し、また、投資家等が建設的な対話に活用できるためのガイダンスとする（詳細に細則を定めるのではなく原則を定める）ことで良いか。

## 論点2：ガイダンスの構成について

- ガイダンスの構成については、国際的な調和を図るため、主要なESG情報開示フレームワークの共通点を参照することとし、サーキュラー・エコノミー及びプラスチック資源循環特有の事情を踏まえて検討することで良いか。具体的には、「ガバナンス」、「ESGリスク・機会の認識等」、「戦略的取組等」、「指標と目標（KPI）」を基本構成とすることで良いか。
- 一部のESG情報開示フレームワークで採用している「価値観」と「ビジネスモデル」をどう扱うか。

## 論点3：本研究会のスケジュールについて

- 国際的な場における発信を想定し2、でとりまとめた建設的な対話の視点に沿って議論していくことで良いか。